

取材  
de  
キャッチ

# 門司の互飛躍人会

## 継続はチカラなり。強制なしの自由参加で、息の長いまち美化活動を継続中。

会の発足から24年。まちの活性化と会員相互の親睦、地域社会における明るい奉仕活動を目指し、設立当初からのメンバーを中心に活動している門司の互飛躍人会の皆さん。「まちがきれいになれば、自分たちもうれしく気持ちがいい。だからこそ、一過性ではなく、継続することで少しでもまち美化に貢献できれば」と、清掃活動を続けています。長続きの秘訣の一つが、参加を強制しないこと。無理をせず、できる人ができる時に参加するというスタンスを大切にしているのだそうです。

今回は、大型台風接近のニュースが聞こえる中、JR門司駅前の不老通り周辺のゴミ拾いと草取りを行いました。今回が初参加という方は、「植え込みに隠すように捨てられたゴミをみて、捨てる人の心理がわかる。ゴミを捨てている姿を見て、捨てる人が1人でも減れば、少しずつでもまちはきれいになると思う」と話していました。始めた頃に比べ道路のゴミは減ってきており、まち美化に対する意識も変わってきています。地域の方から「ご苦労様です」という声を掛けられることも多いのですが、それでもゴミが捨てられています。「これからもゴミがあれば拾う。できることを地道に継続していきます」と、道路サポーターとしての気持ちを話してくれました。



取材  
de  
キャッチ

# NPO法人グリーンサポート

## 環境未来都市 北九州市の、住みよいまちづくりに貢献したい。

平成26年12月14日、NPO法人グリーンサポートの創立10周年記念行事が行われました。

当日は、木枯らしの吹く厳しい寒さの中、子どもたちも参加して志井公園周辺の清掃活動を行いました。前の週にゴミを捨てたにも関わらず、タバコの吸い殻やペットボトル、空き缶、ビニール傘など、多くのゴミが集まりました。寒い中の清掃活動で、犬の散歩やジョギングなどを楽しむ公園の利用者にまち美化の大切さをアピール。参加した小学生は「寒かったけど楽しかった。また参加したい」と話していました。

退職をきっかけに、環境局のまち美化推進員としてボランティア活動を始めたという代表の藤河さん。長年に渡ってまち美化活動を続けている経験から、「活動を継続することで、以前よりゴミが減り、違反広告物の除去件数も少なくなるなど、環境未来都市の市民として、自分たちのまちをきれいにしようという意識が育ってきたのを感じる」と話してくれました。



No.29



# 北九州市道路サポーターだより

## 道路を愛するみなさんを応援!

## 第10回北九州市道路サポーターの会総会開催

平成27年2月17日(火)、小倉北区のAIMビル3階G展示場において、第10回北九州市道路サポーターの会総会が開催され、多くの方にご参加頂きました。

総会前のプレイベントでは、北九州マラソン前日に行われ、北九州市道路サポーターの会のメンバーも多数が参加した「スポーツGOMI拾い事業について」の講演と、「花苗の育成講習会」が行われました。

総会では、北橋市長の挨拶、北里代表の挨拶に続き、北九州市道路サポーターの会事務局から、「活動しやすい仕組みづくり」などの取り組みについて報告が行われました。また、この1年で新たに加入した19の新規加入団体の紹介と来年度からの幹事及び副幹事14名の紹介があり、その後、各区に分かれ、活発な意見交換が行われました。

北九州市道路サポーターは、平成17年10月に12団体、513名で発足し、今年10月で節目の10周年を迎えます。平成27年1月現在で、212団体、約1万2000名の皆さんが登録し、活動するボランティア団体へと成長し、美しいまちづくりの輪が着実に広がっています。

今後は、この美しいまちづくりの輪をさらに大きな輪にしていくために、登録団体が積極的に意見交換を行い、活動しやすい仕組みづくりに取り組むとともに、各自でできることを継続していくことをあらためて確認し、全員で記念撮影を行い、第10回総会を終了しました。



北橋市長挨拶 北里代表挨拶



参加者

北九州市道路サポーターの会の認定団体は、現在212団体。約12,000名の皆さんが積極的な活動を行っています。

### 新規加入団体紹介 (平成26年3月～平成27年1月加入)

門司区	互栄門会	小倉北区	町を美しくする会
小倉北区	高坊第2鶴寿会	小倉南区	日明リサイクル工房
	KID'S work(きっずわーく)	八幡西区	榆の木坂 ゆりっ子
	新馬借(フラワーポット、清掃)	八幡東区	榆の木坂 すみれっ子
	みずほふれあい花壇	八幡東区	風薫る街曲里ボランティア清掃の会
	日本資源流通(株)本社	八幡東区	株式会社清水建築工業
	日本資源流通(株)北九州営業所	八幡東区	九州電力(株)八幡営業所
	日本資源流通(株)プラスチック事業部	八幡東区	北九州帆柱ライオンズクラブ
北九州モビリティデザイン研究所	八幡東区	NPO法人北九州ウォーキング協会	
		八幡東区	ボランティア勇気

今度は皆さんの活動地域へお邪魔するかもしれません…。 ●今回ご紹介した団体へのお問い合わせは、下記事務局まで。

### ホームページをご覧ください!

●北九州市道路サポーターのホームページアドレス

<http://www.road-supporter.com/>

北九州市道路サポーターのホームページは、知りたいことがすぐわかるような構成とし、活動レポートやニュースなど、「サポーターだより」でご紹介しきれない情報や各区の認定団体さんを掲載しています。「サポーターだより」ともどもご活用ください。

新規団体をご紹介いただける方、清掃や花苗・取材などについてのご相談、お問い合わせは…

[東部事務局(門司区、小倉北区、小倉南区、戸畑区)] NPO法人 ふきの会 Tel.(093)511-6700 担当:古海  
[西部事務局(若松区、八幡東区、八幡西区)] NPO法人 まちづくりサポート北九州 Tel.(093)967-7758 担当:渡辺

【企画】 〒802-0001 北九州市小倉北区浅野2丁目16-43 NPO法人 ふきの会 Tel & Fax : (093)511-6700  
【発行】 北九州市 建設局 道路部 道路計画課 Tel: (093)582-3888 平成27年3月発行

# 平成26年度活動・取組の状況

第10回北九州市道路サポーターの会総会において、道路サポーターの会の事務局である北九州市建設局道路計画課の上田課長より、平成26年度の活動報告が行われました。

## 平成26年度の取り組み

### ■ 幹事会・区会の開催

平成26年度は、4月、5月、7月、12月に計4回の幹事会を開催。また、平成26年8月と平成27年1月の2回、区会会議を開催。区会で出た意見を幹事会で討議しました。

### ■ 道路サポーターのPR

平成26年10月11日(土)・12日(日)、北九州市役所周辺広場で開催された西日本最大級の環境イベント「エコライフステージ2014」で、道路サポーターパネル展示やクイズラリーを実施し、参加者に道路サポーター活動をPRしました。

#### ● 道守九州会議との連携

平成26年11月21日(金)・22日(土)に大分市のホルトホールで開催された道守九州会議交流会「みちづくしINおいた2014」に、北九州市道路サポーターの会から7名の方が参加し、道守ふくおか会議の代表として、北里幹事長が道路サポーターの「新たな仕組みづくり」や北九州マラソン前日に行われた「スポーツGOMI拾い」についての活動報告を行いました。

### ■ 表彰

平成26年度「道路ふれあい月間国土交通大臣表彰」

道路サポーターのうちサポーターに登録して5年を経過し、表彰条件に合致した29団体が平成26年度「道路ふれあい月間国土交通大臣表彰」を受賞。加えて、北九州国道事務所長から感謝状を頂きました。

平成26年度北九州市都市緑化功労者表彰

緑の保全、美化活動を5年以上、月1回以上の活動を継続して行っている団体を対象とする賞で、サポーター制度設立時から花苗活動を継続して頑張っていた2団体が受賞しました。



## 制度・仕組みの見直し

活動しやすい仕組みづくり

### ■ 新たな組織づくり(平成24年)

団体数の増加により、会員の意見交換の機会が減少したこと等から、より充実した道路サポーター活動を目指し、新たな組織づくりに取り組み、幹事会と区会を創設しました。

### ■ 支援の拡大(平成25年)

散水栓増設、用具の追加、軍手配布数の増加、帽子の更新

### ■ 支援用具の仕組みと表彰制度(平成26年)

区会での意見をもとに、幹事会で検討を行っており、今後も引きつづき検討していきます。

#### ● 支援用具の仕組みの見直し

ポイント制によるわかりやすい仕組み  
用具の追加が可能な仕組み

#### ● 長期活動団体の表彰制度

道路サポーター活動が10年を超える団体を表彰

#### ● 道路サポーター活動のPRの充実

のぼり作成と貸出、パンフレットの更新、活動紹介等

## (H27年度からの)幹事および副幹事

【代表】 小倉北区代表 岩本 幹彦さん

【副代表】 小倉南区代表 福岡 明さん

区	幹事	副幹事
門司区	門司港レトロ花の会 北里 幸良さん	黄金町ビューティフル・クラブ 中井 黄美男さん
小倉北区	宮田町1丁目自治会 岩本 幹彦さん	木町本町町内会 木谷 直記さん
小倉南区	朽網校区環境美化部会4丁目 福岡 明さん	長尾校区まちづくり協議会 吉本 保さん
若松区	若松1区青々会 渡辺 清子さん	深町桜会 花村 嘉男さん
八幡東区	枝光北まちづくり協議会 芳賀 文明さん	山路松尾町年長者の会 大平 京子さん
八幡西区	黒崎花咲かせ隊 吉田 久美子さん	黒崎宿藤田代官通り会 西山 康子さん
戸畑区	さやふく環境サポーター 佐々木 憲一郎さん	戸畑区老人クラブ友親会 戸成 武さん

# 区毎意見交換会

道路サポーター活動をさらに発展させていくために、区毎に意見交換会が行われ、活発な意見や要望が出されました。

## 門司区

- サインボードの設置を早急に対応してほしい。
- 散水栓の設置位置決まったが、なかなか設置されないで、夏までには設置してほしい。
- 帽子は、日よけ付きや実用性のあるものがよい。
- 冬場は帽子をかぶらないので、一年を通して考えると、ビブスの方が帽子よりPR効果が高いのではないかと。
- 支援用具について、きめ細かい配慮をしてほしい。
- PR効果や安全性が向上するので、のぼり旗がほしい。



## 小倉北区

- 今年度より希望団体には、台車が各団体に1台の支給可能、また、散水栓も条件により、2箇所以上の設置が可能となった。
- 支給用具は、柔軟に対応することなので、相談してほしい。
- 表彰制度やポイント制など、団体が活動しやすいように仕組みを検討していく。
- 花苗の支給について、他の団体と同じように早めに届けてほしい。



## 小倉南区

- 花を植える箇所は、ほとんどないが、防犯パトロールにあわせて、地域のゴミ拾いを行っている。無理強いわせず、できる人でやる。
- 花植えの活動も小さく無理なくやった方が、長続きすると思う。
- 苗ポット(四角い稲を育てるようなもの)で、種から育てるのもよいのではないかと。いちから育てると愛情もよりわくと思う。エコハウスで行われている講習会を活用するのも有効だと思う。



## 若松区

- 花をもっと植ええられる部分を確保してもらえると助かる。また、市が管理している土地で花苗活動をさせてもらえないならば、除草などの管理をしてほしい。
- 響灘北緑地は、海岸線で寂しいので、もっと花があるとよい。
- 区の中でも、もっと団体同士の横の連携をとってほしい。



## 八幡東区

- 道路サポーターや公園愛護会、など活動団体が合同で話せる場が必要ではないかと。行政が縦割りになっている。
- 活動は、70代後半から80代が主力になっている。
- 65才の定年者に声をかけても参加者が少ない。
- 若い人が参加しやすい環境づくりや企業の協力などが必要。
- 小学校との協働でボランティア活動を行っており、授業などにあわせて取り組みを行うことで、定着させていきたい。
- ウォーキングにあわせて、ゴミ拾いを行っている。



## 八幡西区

- 安全で丈夫な道具や除草用具も選べるようにしてほしい。
- 除草用具として、三つクワの支給をしてほしい。
- 鎌の刃が脆い、丈夫なものを支給してほしい。
- 街路樹が枯れて、撤去した場合は、その後新たな街路樹を植えてほしい。
- 清掃活動を行っている箇所に隣接している企業にも、市から清掃活動に参加するように打診できないか。



## 戸畑区

- 道路サポーターでお茶代を出せないか。また、企業の協賛などでお願いできないものか。地域環境支援金というものを活用してお茶を出している事例がある。
- 活動区域の中で、ケヤキや桜が生い茂り、落ち葉が多い。何とかならないものか。落ち葉を使って、腐葉土を作って活用している事例もある。
- 道具は、丈夫なものを支給してほしい。



## イベント【第1部】

# スポーツGOMI拾い事業について

講師：NPO法人 北九州スポーツクラブACE理事長  
上村英樹氏



スポーツGOMI拾いとは、決められたエリア内で、決められた時間内に、チーム対抗でゴミの量と質を競い合う、スポーツ史上最も環境にやさしく、社会貢献活動史上最もエキサイティングな新しいスポーツです。拾ったゴミは、一般ゴミ、プラスチック製容器包装、かん・ビン、ペットボトル、ペットボトルのキャップ、タバコの吸い殻という6つに分別し、それぞれのポイントで計算していきます。

今年の2月7日、北九州マラソンの前日に、小倉北区のあさの汐風公園で開催した「スポーツGOMI拾い大会in北九州～北九州マラソンを勝手に盛りあげよう大会」では、昨年優勝した若松高等学校の生徒たちが、「今年もぜひ優勝したい」と卒業間近の3年生が参加し、二連覇を果たしました。来年は三連覇を目指して、参加を楽しみにしています。

一般の清掃活動との違いは、どこでも、だれでも開催できて、誰でも参加できるゴミ拾いであること。小さな子どもから中学生、大人・高齢者の方まで、年代に関係なく参加できること。そして、地域をうまく巻き込むことができるツールであること。行政や自治会、企業などが主体となることができる清掃活動で、高い環境教育効果が生まれます。

社会貢献事業の一環として、平成24年から始めたスポーツGOMI拾いは、平成25年に北九州市との協働で取り組み、全部で16大会(うち1つは台風で中止)を実施し、参加者は延べで2,052名、収集したゴミの総量は約3,000kgになりました。

道路サポーターとして活動している皆さんはご存知だと思いますが、北九州の街は一見きれいです、通りにもそんなにゴミは落ちていません。ところが、少し目線を変えると、植え込みの中や物陰には、ゴミが落ちています。今年のあさの汐風公園大会でも、多くのタバコの吸い殻が集まりました。

ぜひ、地域でスポーツGOMI拾いに取り組んでいただければと思います。声をかけていただければ、いろいろなノウハウをお渡しできると思います。



### スポーツGOMI拾いとは…

2008年に東京で誕生した、「スポーツ史上最も環境に優しく」「社会貢献活動史上最もエキサイティング」な、まったく新しいスポーツである。なお、北九州市に根付くものとなるよう、本事業での開催は、オリジナルルールを作成し(平成24年度)、大会を行っている。

### 「北九州スポーツクラブACE」とは…

総合型地域スポーツクラブ「北九州スポーツクラブACE」は、いつでも・どこでも・だれでも・そしていつまでも、スポーツに親しめる環境づくりを目指す、地域に根ざした自主運営型・複合型スポーツクラブです。

## イベント【第2部】

# 花苗の育成講習会

### 良い土のポイント

#### 1 排水性

排水性とは、「水の抜けが良い」ということです。植物も呼吸をしています。また、老廃物のようなものを根から出しています。水はけが悪いと老廃物が溜まり、根腐れの原因になるので、水はけのよい土を目指しましょう!(また水分が過多になると、植物がどんどん伸びて、ひ弱な株になっていきます。)

一般的には、軽石やパーライトなどを入れますが、このようなものがなければ、地盤を高くしてやると水はけが良くなります。



#### 2 保水性

保水性は、水を保つことです。でも、排水性と保水性では、矛盾した点があります。水が全部抜けてしまったら、植物はすぐに枯れてしまいます。そこで、スポンジを細かく切って植木鉢の中に入れておくと、スポンジの作用で適度な水が保てます。そして余分な水は流れていきます。皆さんの所にお配りしている堆肥で十分適度な水が保てます。堆肥を上体の積の2～3割くらい上の中に混ぜ込みましょう。

10cm耕すのと20cm耕すのでは、堆肥の量は倍になりますので、あくまでも体積で考えて下さい。

#### 3 通気性

通気性とは適度な空気を含むことです。

根は呼吸しています。空気が不足すると生育が悪くなったり、根が窒息死や根ぐされを起こします。また土の中には、植物にとってとても役に立っている微生物がいて、それが空気を必要としており、通気性が良いほうがいいのです。お配りしている堆肥で十分です。

#### 4 有機物

肥料には有機質肥料と無機質肥料があります。牛糞堆肥も有機物です。有機物は目に見えない微生物が活発化して、植物にいろいろな養分を供給してくれます。微生物が育たないような土ではだんだん生育が悪くなります。

また、除草した後の草も有機物ですから、土の中に混ぜておくとだんだん良くなります。除草した草などは、すぐにボランティア袋に入れてしまうのではなく、余裕があれば再利用すると良いでしょう。



#### 5 肥料

肥料の3要素は『窒素・リン酸・カリ』です。窒素は葉っぱなどを良くします。植物にとっては絶対に必要なものです。皆さんの所に届いている肥料は、窒素とリン酸とカリが10%くらいの割合で、均等の取れた肥料ですので、それをやってあげればまず問題ありません。

肥料のやり方は、まず、植えつける前に元肥をあげます。元肥とは、「草花、野菜苗の植え付け、鉢花、観葉植物などの植え替え時に上に混ぜる肥料」です。植物が生育するうえで肥料切れを防ぐ大切な働きをしており、元肥はある程度長期的に効きます。ちなみに1月ごろや2月ごろに油かすなどの寒肥をやると、時間が経って植物が欲しいような肥料になり、春になるとちょうどよい状態で効き始めます。

また、追肥というのがあり、植物の生育に合わせて補ってあげます。一般的には、液体肥料などを与えます。即効性で元気に育ちます。

## 植え付け方

まず、植え付けるときは土壌をかるく湿らせておきます。完全に乾燥しているとよくありません。そして、堆肥を均等にすき込みます。すき込む時には、できるだけ深く掘ってあげた方が良いです(20cm~30cm)。それから土の表面をきれいにならして植え付けます。ポットから苗を取り出し、かるくほぐしてから植えますが、根の張っていないものはほぐさずに、かるく抑えるだけで大丈夫です。

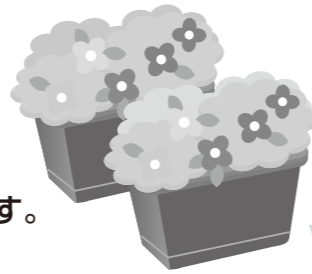
植えるときには、ポットの土の高さと花壇の土の高さをそろえましょう。夏場などはわりと詰めて植える方が、ちょうど良い影を作ってくれて、乾燥が防げます。

植えた後は、きちんと株元を抑えることです。その後に水やりをしますが、土の表面に強い水圧でやるとそのはね返りが葉っぱの裏につきます。葉っぱの裏から呼吸をしているので、病原菌が付き病気の原因になり生育が悪くなるので、気をつけましょう。



### 植え付け方ポイント

- 土壌を少し湿らせておきます。
- 堆肥や腐葉土を均等に鍬き込みます。
- 土の表面をきれいに均一にします。
- ポットから苗を取り出し、軽くほぐして植えます。
- 苗の土の表面と、土壌の表面の高さを合わせます。
- 苗と苗の間隔は 15cm ~ 20cm ぐらいで植えます。
- 植えた後、軽く土をおさえて苗を落ち着かせます。
- 水やりをしますが、強くあたえないようにします。
- 跳ね返りの水が葉の裏などに付くと、病気の原因になります。



### 植え付け後の管理

■花柄 つみ…咲き終わった花は、そのままにしておくと種子ができて花付きが悪くなることもあるので、こまめに花柄は取ってやると良いでしょう。

■雑草取り…雑草が茂ると花に日光が当たらなくなり、光合成ができずに生育が悪くなります。植物は、光に当たれば葉っぱの中の工場が水を水素と酸素に分解して、エネルギーを作ります。雑草で影になってしまうと、エネルギーができなくなって弱くなるということがあるので、日当たりをよくしてあげましょう。取った草は堆肥にすると非常に便利です。

■切り戻し…夏になると植物は伸びますが、伸びすぎると株が痛むので、3分の2くらい切り戻します。切るとわき芽が出ます。お盆の頃に切ると2週間後には前よりももっと良くなります。切り戻したものは、乾燥防止のため、花壇に置いておきましょう。置いて上をかぶせておくと、土に良い状態になります。

■種子の採取…花が終わると子房が膨らんできます。茶色になったら、熟してきたしるしです。株の下に新聞紙やシートを敷いて房ごと収穫します。収穫した房は、そのままよく乾燥させてその後ごみを取り除いて種子だけを紙袋やお茶パック等に入れ、冷蔵庫の野菜室で保管してください。

## 団体交流掲示板

~この道では、どんな皆さんが活動しているの?~

身近なところで、いきいきと活動を継続している団体の皆さん。それぞれのちょっとした工夫やアイデアが、これからの活動のヒントになるかもしれません。



もしかしたら、こちらの団体さんって私たちのすぐ近くかもMAP

取材  
de  
キャッチ

### 明治安田生命北九州支社

社会やお客様との絆を大切にする企業として、始業前の清掃活動を続けています。

地域社会に貢献する保険会社として清掃活動を続けている明治安田生命北九州支社の皆さん。お揃いの法被を着て、支社ビル周辺と堺町公園周辺の清掃を行っています。

支社周辺は飲食店が多いエリアで、たばこの吸い殻が目につきます。たばこのフィルターは融解せず環境にも有害であることから、重点的に拾うようにしています。また、客待ちのタクシーの中から、社員の皆さんがたばこの吸い殻を一つひとつ丁寧に拾う姿をみて、タクシーの周りのたばこのポイ捨てが減ってきたのを実感しているそうです。

「道路の清掃を始めてから、車からごみを捨てる人が気になるようになった。活動を続けることで、街がもっときれいになればいいと思う」「始業前に清掃することで、清々しい気持ちで仕事に取り組むことができる」という声も聞かれました。

「いつもありがとう」とお客様から感謝の言葉を掛けられることもあるなど、明治安田生命の清掃活動は、着実に地域の中に浸透しています。



取材  
de  
キャッチ

### 手向山公園南地区公園愛護会

自然と歴史に彩られた憩いのエリアを、いつ来ても気持ちのいい場所に。

宮本武蔵と佐々木小次郎ゆかりの地として知られる手向山で活動している手向山公園南地区公園愛護会の皆さん。手向山公園を訪れた人を、いつでも気持ちよく迎えられるようにとの思いから、長年に渡って清掃活動を続けています。

この日は8月の第1日曜日が雨の日の代替活動日。集合場所に行くと、前日にメンバーを中心とした4人が3時間かけて、山頂から中腹までの側溝の清掃と草刈りなどをしてきていました。この日集まった皆さんは、その苦勞に感謝しつつ、グループに分かれ前日の続きの側溝の掃除と山道の清掃に汗を流しました。

メンバーは60代、70代が中心で、年を重ねて山道での活動が体力的にきつくなってきた面もあるそうです。そんな中で皆さんの活動を支えているのは、「自分たちがやらなければ」という責任感と自分たちの暮らす手向山を愛する気持ち。風の強い日や大雨の日は、木々の葉や小枝が側溝に詰まり水があふれるため、気づいたメンバーたちが随時地道な清掃活動をしています。

今後の課題は、この活動をどうやって次の世代に引き継いでいこうか。「日曜日の活動なので、現役の若い世代の方に手を貸してもらえると嬉しい」と話してくれました。

